

ICT を活用した《ソーラン節》の授業実践

— 踊りを取り入れて —

鈴木 慎一郎・谷口 峻音

A Case Study on “Sorani Bushi” Class with the Help of ICT:
Adopting Dance

SUZUKI Shinichiro, TANIGUCHI Takane

地域学論集（鳥取大学地域学部紀要） 第17巻 第2号 抜刷

REGIONAL STUDIES (TOTTORI UNIVERSITY JOURNAL OF THE FACULTY OF REGIONAL SCIENCES) Vol.17 / No.2

令和2年 12月 25日発行 December 25, 2020

ICT を活用した《ソーラン節》の授業実践

- 踊りを取り入れて -

鈴木慎一郎*・谷口峻音**

A Case Study on “Soran Bushi” Class with the Help of ICT: Adopting Dance

SUZUKI Shinichiro*・TANIGUCHI Takane**

キーワード：ICT, 《ソーラン節》, 踊り, 音楽デジタル教科書, DVD

Key Words: ICT, “Soran Bushi”, Dance, Digital Textbooks for Music Education, DVD

はじめに

本稿の目的は、ICT を活用して、踊りを取り入れた《ソーラン節》の授業実践の有効性を明らかにすることである。

日本の民謡は、音楽と踊りが一体となった文化である。しかしながら日本の学校教育では、歌う活動は音楽で、踊りの活動は体育（保健体育）で取り扱うことになっている。

筆者は「小中一貫を図った音楽デジタル教科書を活用した日本の民謡の指導法開発」に取り組んでいる。しかしながら、2015（平成 27）年発行の小学校音楽デジタル教科書には、日本の民謡の範唱の音声や踊りの動画は収録されていないという課題があった¹。一方、中学校音楽デジタル教科書では、踊りは収録されていないが、範唱の動画が収録されており、伝統芸道の方法である「模倣」と「繰り返し」を無理なくできるように工夫されている²。そこで、小学校においても中学校音楽デジタル教科書を活用して日本の民謡を学習する方法を考案し、本実践を構想した。

先行実践としては、大屋省子が挙げられる。大屋は福岡県の小学校において《炭坑節》の授業実践を行い、踊りも取り入れていた。「歌詞内容が身体に入り、身体を通して歌詞の意味が表現される時、自己

が解放され、美しく力強い歌声での歌唱表現が行われた」と有効性を指摘する³。画集を提示し、視覚的な方法が採られているものの、ICT は活用されていない。

一方、衛藤晶子（2008）は、体を動かしながら歌う活動を取り入れながら《ソーラン節》の実践を小学校第 5 学年において展開する⁴。DVD を活用した方法が採られているものの、音楽デジタル教科書が発行される以前の実践のため、当然のことながら音楽デジタル教科書は取り扱われていない。

研究方法としては第一に《ソーラン節》の教材としての位置付けを整理する。第二に音楽デジタル教科書等の ICT を活用した《ソーラン節》の授業を小学校において実践し、検証したい。

1. 《ソーラン節》の教材の位置付け

1. 《ソーラン節》の概観

『日本民謡大観』において《ソーラン節》は次のように解説される⁵。

三味線にのるようになったのは昭和 10 年に札幌の民謡家今井篁山が今日の形に整えてからである。それでも北海道人だけに、従来の《ソーラン節》はくずさずきた。その今井の唄と元

*鳥取大学地域学部地域学科人間形成コース

**鳥取大学附属小学校

の《荷揚げ木遣》の比較譜が譜例4である(譜例省略)。ところが昭和30年代初め頃から、舞台上で《ソーラン節》が謡われる機会が増えると、繰返される「ソーラン」に変化をつけるべく三つ目の「ソーラン」を北檜山町のように縮めて「ソラン」と謡うようになってし始めた。しかし大タモ網を用いることを考えると、ここも同じ間拍子でないといけないのである。

『日本民謡事典I』では、《ソーラン節》は下記の通り、説明される⁶。

北海道の仕事唄。北海道の日本海沿岸、とりわけ積丹半島を中心とする鯨漁場で、ヤン衆(季節労働者)たちが、「沖揚げ作業」の折りに唄ってきたものである。また、酒席や舞台上でも唄われてきた。

「沖揚げ」は、海中の網の中の鯨を、長い柄のついた、袋状の網(タモ網)を用いて船上へ汲みあげる作業である。二人のヤン衆が柄を持ち、もう一人が二股の棒でタモ網を突き上げる。その三人の動作をそろえるために、この唄を唄った。

歌の履歴に関しては、下記の通り、説明される⁷。

この唄の源流は、現青森県上北郡野辺地町辺りの《荷揚げ木遣り》で、船の荷物を積み替える折りに唄っていた唄である。

1850年に、佐藤伊三右衛門が、江差(檜山郡江差町)・歌棄(寿都郡寿都町字歌棄町)・磯谷(寿都町字磯谷町)へ、南部(青森県東部から岩手県中央部一帯)の鯨漁に使用する建て網漁法を持ち込んで、鯨漁を行った。その時、沖揚げ作業に《荷揚げ木遣り》を利用したようである。さて、1935年頃、札幌市在住の民謡家今井篁山が、その《ソーラン節》の節まわしを三味線の伴奏に乗せて唄えるように整えると、酒席でも盛んに唄われるようになった。そして、1957、58年頃、《江差追分》の唄い手、初代浜田喜一が、美声と張る声を生かすべく、節まわしを工夫した。すなわち、唄い出しの「ヤーレン」に小節を挿入して伸ばし、また、五回繰返す「ソーラン」の三つ目を「ソラン」と縮めて変化をつけた。その唄い方が人気を呼んで、この唄は日本中へ広まっていった。

上記を整理すると、1935(昭和10)年、民謡家今井篁山によって《ソーラン節》は三味線を加えて唄われることが多くなり、1957(昭和32)年頃、初代浜田喜一(1917-1985)によって「ソラン」と縮めて唄われたのがヒットし全国に広がったということになっている。

2. 学校教育における《ソーラン節》

(1) 音楽

1933(昭和8)年、広島高等師範学校附属小学校音楽研究部編纂『日本童謡民謡曲集』では、北海道の民謡として《松前追分》1曲のみの掲載で、《ソーラン節》は所収されていなかった。

『歌い継がれる名曲案内 音楽教科書掲載作品10000』によると、《ソーラン節》の初出は、1977(昭和52)年の教育芸術社の『5年生の音楽』、1966(昭和41)年の音楽教育図書の『楽しい中学生の音楽1』とされる⁸。しかし、筆者の行った調査によると、1965(昭和40)年の教育出版の『新版標準音楽5年』において《ソーラン節》が譜例とともに掲載されていることを確認した⁹。また、1957(昭和32)年の教育芸術社の『教芸決定版中学音楽1』において《ソーラン節》が掲載されていた¹⁰。

2008(平成20)年告示の学習指導要領に基づいて作成された小学校教科書においては、第4学年において教育芸術社が鑑賞教材、教育出版が表現教材として《ソーラン節》を取り上げていた。中学校教科書では、教育芸術社、教育出版ともに第1学年の表現教材として掲載している。

(2) 体育

「民踊」という用語は、1947(昭和22)年発行の『学校体育指導要綱』において使用され、日本の民謡も教材として位置付けられた。1949(昭和24)年発行の『学習指導要領 小学校 体育編(試案)』では、「フォークダンス」はまだ登場せず、「民踊」が使用されていた。1953(昭和28)年発行の『小学校学習指導要領 体育科編(試案)』では、「フォークダンス」が登場し、その中に日本の民踊が置かれる¹¹。

「日本の民踊」は、2008(平成20)年ならびに2017(平成29)年告示、小学校学習指導要領において、第5学年及び第6学年の「F 表現運動」が「A 表現」と「イ フォークダンス(日本の民踊を含む)」で構成され、フォークダンスの中に位置付けられている。《ソーラン節》については以下のように一例として挙げられている¹²。

ソーラン節（北海道）やエイサー（沖縄県）などの力強い踊りでは、低く踏みしめるような足取りや腰の動きで踊ること。

中山義夫によると、《ソーラン節》は、1953（昭和28）年、栃木県で開催された「第7回レクリエーション大会」において発表され、「全国各地の教育委員会や、レクリエーション協会、フォークダンス協会等の指導の下に広く全国に行われている」と解説する¹³。

このような文部省や日本フォークダンス連盟等とは別に、民主運動、平和運動とかかわりながら、民謡に取り組む潮流もある。1953（昭和28）年、民謡の宝庫と呼ばれる秋田県に創立された「わらび座」である。

(3) わらび座

まずはわらび座について整理しておきたい。わらび座の創立者は原太郎（1904-1988）である。1931（昭和6）年、東北帝国大学を卒業後、「日本プロレタリア音楽家同盟」に加盟し、翌年には書記長に選出された作曲家。しかし、1934（昭和9）年、弾圧を受け解散。1943（昭和18）年、陸軍に徴用され、シンガポールの燃料廠に配属され、敗戦後はレンバン島で捕虜となる。1946（昭和21）年、復員し、昭和石油に復職。そこで労働組合を組織するにあたり、1947（昭和22）年、日本共産党に入党¹⁴。小熊英二によると、旧来の価値観が崩壊し、心の指針を求めていた当時の若者に人気があったのは、マルクス主義とキリスト教をはじめとした宗教書であった。また、共産党が戦争に反対した唯一の政党であったこともあり、1950年代まで、日本の知識人の間では、共産党の精神的権威は絶大であったと分析する¹⁵。

1946（昭和21）年2月の共産党第五回大会で採択された文化政策草案を起草した蔵原惟人は、関鑑子に文化芸術を通しての運動を行うように勧めていた。関は勧めに応じ、同年に結成された「日本民主主義文化連盟」の音楽部門の指導を担当する。1947（昭和22）年、「青共中央コーラス隊」が創設、1948（昭和23）年2月、「青年共産同盟中央合唱団」と改称して正式に創立。関の戦前の活動には民謡を採り入れるような傾向はなかった。しかし、民謡が選曲され、《木曾節》も歌われる。同年に発行された『青年歌集』には《ソーラン節》も所収される。日本の民謡は振り付けで歌われることが多かった¹⁶。座敷音楽化や商品化された日本の民謡ではなく、労働者によ

って本来民謡が持っていた明るくたくましい部分を取り戻し、再創造することを「うたごえ運動」は目指していた¹⁷。

1948（昭和23）年3月、共産党は「全人民闘争の不可欠の部分としての文化闘争をつうじて日本の人民的民族文化の独立と発展を確保しなければならない」と打ち出し、「日本民族文化の独立のための闘争」の強化が図られる¹⁸。同年7月に開催された、日本共産党党員芸術家会議に原も出席し、次のように回想し、8月、「第一次海つばめ」が結成される¹⁹。

吉祥寺の前進座で、日本共産党の党員芸術家会議が催されたが、そのとき野坂現議長、故徳田書記長などから、党員芸術家が大衆の日常の要求と党の政治課題にこたえる芸術活動を行うように要請された。このことが、わたくしたち何人かのものが「わらび座」の前身「海つばめ」を組織したおもなきかけになった。

1948（昭和23）年8月、戦後最大の労働争議とされる「東宝映画争議」の弾圧に警察とアメリカ占領軍が出動した。この際の共産党のスローガンは「民族文化を守れ」であった²⁰。関と青年共産同盟中央合唱団は、全国から集まった「オルグ」（…オルガナイザー、大衆や労働者の中に入り、組織を作ったり拡大したりする活動家）に新しい歌を教え、活動を広げた²¹。

1949（昭和24）年11月、日比谷公会堂において、シベリア帰還者による「帰国感謝記念公演」が開催され、翌年1月には、「帰還者楽団」は全国公演に乗り出す。春には「楽団カチューシャ」と改名し、旺盛な活動を続け、作曲家として原、歌手として雨宮すみえが客員として加わる。このことにより、第一次海つばめは解散となる。しかし、原と雨宮は楽団カチューシャをすぐに退団する。理由としては、原と雨宮は、日本の素材を中心に扱うべきだと主張したのに対し、他の楽団員はソビエトのものを中心に扱うべきとの対立からであった²²。

1950（昭和25）年3月、日本共産党の中央委員会から「民族の独立のために全人民諸君に訴う」という声明が出され、アメリカ文化の浸透により「健全で民主的な日本民族の文化は圧迫され、これにかわって外国のタイピ的、植民地文化があふれ」ていることが強調され、民謡や民謡の再評価がなされる²³。

1950（昭和25）年6月、朝鮮戦争が勃発し、共産党の中央委員は公職追放となり、機関紙『アカハタ』は発行停止となり、レッド・ページが行われた²⁴。共

産党は、武装闘争にも踏み込み、山村工作隊と命名された青年組織を地方に送り込んだり、火炎瓶や爆破物による闘争を行ったりした²⁵。

1951(昭和26)年、「第二次海つばめ」の活動が原と雨宮によって始まる。そこには楽団カチューシャを辞してきた、横山茂(1926-2011)も加わる²⁶。

1952(昭和27)年5月、サンフランシスコ講和条約発効直後のメーデーは、「血のメーデー」と呼ばれる流血事件となる。海つばめも行進に参加し、雨宮は騒じょう罪の嫌疑で取り調べを受ける。東京での活動が困難となり、雨宮を除く、海つばめの8名の若者が上野駅から鈍行列車を乗り継いで室蘭を目指す。北海道では「ポプラ座」と改名し、各地を巡演する。紋別郡滝上町立滝上小学校の公演では、《ソーラン節》を披露し好評だった。北海道での巡演を通して、「日本の民族伝統を学ばなければならない」ということを痛感する²⁷。

1953(昭和28)年5月、東京に一旦戻るものの、「日本の民謡の研究、民俗芸能の継承、民族芸術の創造」の必要性を痛感した彼らは数日後に秋田県に向かい、「わらび座」と改名し、田植え、稲刈り等を手伝いながら活動を続ける²⁸。日本教職員組合の支えもあり、秋田県内の小、中学校がわらび座の舞台となり、人気を得る。公演の際のレポーターとして、《ソーラン節》も披露される。原は次のように解釈する²⁹。

そうらん節は、松前、江差の追分節とならんで北海道の代表的な民謡ということになっているが、秋田の海岸でうたわれる鱒沖揚音頭は、そうらん節とよく似ている。

南北に単調に伸びている海岸線の、ところによって節にちがいもあるが、いずれも大同小異だ。これは秋田のうたがもとだと考える方が、北海道から逆輸入されたとするよりも自然だろう。労働者も農民も北海道の人は過半が東北のどこかにゆかりをもっている。海に働く人たちもその人たちのうたったうたもこの例外ではあるまい。今から60年前には秋田海岸は北海道に比べられる鯨の漁場だったと聞けば、この想像は一層本当のように思われる。

1955(昭和30)年7月、共産党の第六回全国協議会において、「民族独立のための闘争」という方針は継承され、武装闘争路線は完全に放棄された一方、「うたごえ運動」によって支持者を集めることが推進される³⁰。

1957(昭和32)年、わらび座は分裂し、「かかし座」ができる。1959(昭和34)年、わらび座では、日本共産党規約の学習を開始し、総会では「①「わらび座」は、たしかに独立した芸術団体であること、②日本人民の生活を守り、独立と平和のためにたまたかう日本共産党の思想の正しさを認め、その指導をうけ入れる」ことが確認される。このことにより、両座の統一が回復され、1960(昭和35)年、かかし座からの復帰は完了する³¹。

学校公演を積極的に展開したが、1965(昭和40)年、秋田県教育委員会により、公演の邪魔をされたこともあった。日本教職員組合、勤労者音楽協議会等に支援を依頼し、全国から秋田県教育委員会に抗議が殺到し、秋田県教育委員会が謝罪した³²。

1971(昭和46)年、「株式会社わらび座」となり、1974(昭和49)年、「わらび劇場」、1975(昭和50)年、「わらび会館」が完成する。1976(昭和51)年には、修学旅行生の受け入れも開始し、《ソーラン節》のけいこと発表会も組み込まれる³³。

1990年代に入ると、「共生」が重視され二項対立が緩和し、日本共産党の文化工作隊としての側面はなくなる。1992(平成4)年、「温泉ゆぼぼ」がオープン。1996(平成8)年には「株式会社たざわこ芸術村」を発足。1997(平成9)年、秋田県初の地ビール「田沢湖ビール」がオープンする。1998(平成10)年、長野オリンピック文化・芸術祭に記念作品「いのちの祝祭」で招待公演を行う。現在は「あきた芸術村」となり、観光地にもなっている³⁴。

1968(昭和43)年1月、和光高等学校教諭であった村瀬幸浩を中心に「民族舞踊教育研究会」が発足し、翌年、『民族舞踊教育研究』が創刊される³⁵。

同時期の1968(昭和43)年8月、宮城教育大学教授の中森孜郎らが中心となってわらび座において「第一回民族舞踊を学ぶ会」が開かれ、村瀬も実践報告を行う³⁶。

1972(昭和47)年、わらび座民族芸術研究所編『日本の子どもに日本の歌と踊りを：国民教育運動と民族文化の接点をさぐる』が発行される³⁷。

1973(昭和48)年、宮城教育大学において「日本の芸能」が開講される。当初は中学校教員養成課程保健体育専攻と音楽専攻の学生を対象としていたが、1974(昭和49)年度以降、一般教育科目となる。中森は、学生の変容を目の当たりにし、民舞を小・中・高等学校や特別支援教育に取り入れていく確信を得る³⁸。

この時期の先駆的实践としては、明星学園小、中

学校、岩手県衣川村立衣川小学校大森分校（1998 年閉校）等が挙げられる³⁹。

1975（昭和 50）年、宮城教育大学附属小学校の校長を務めていた中森は、第 5 学年の児童を対象に《ソーラン節》の授業を自ら行っている。全 4 時間で、以下の通り、実践された。わらび座による振付で行われる⁴⁰。

第一時限

- ・民謡踊りの特性について、一定の理解をはかる。
- ・《ソーラン節》の社会的背景やその内容について理解させる。
- ・《ソーラン節》の踊りと歌について、その全体像を感じとらせる。
- ・舟をこぐ動作を教える。

第二時限

- ・一番の動作の順序を覚え込ませる。

第三時限

- ・一つ一つの動作をより正確にし、表現にまで高める。

第四時限

- ・不十分な点を徹底する。
- ・グループごとの発表を行う。

1975（昭和 50）年、村瀬編著『体育の授業 日本の踊り』が発行される。

1990（平成 2）年、中森著『日本の子どもに日本の踊りを』が発行される。

(4) TOSS

他方、《YOSAKOI ソーラン》の登場により、全国に新たな実践が広がった⁴¹。これには、TOSS（Teachers' Organization of Skill Sharing, 旧、教育技術法則化運動）も関与し、2006（平成 18）年、『YOSAKOI ソーランの教え方・指導者用テキスト』が出版される。

このように《ソーラン節》は、第一に文部省や日本フォークダンス連盟等の中央の組織、第二に「わらび座」を中核に置いた教育実践、第三に TOSS による教育実践の方法により、全国に広がった。

ここで広がった時期について再度、整理しておきたい。フォークダンスとして発表されたのが、1953（昭和 28）年だった。民謡歌手の初代浜田喜一によってヒットしたのが、1957（昭和 32）年頃だった。中学校の音楽教科書に掲載されたのも 1957（昭和 32）

年であった。しかし、共産党の『青年歌集』に掲載されたのは、1948（昭和 23）年と一番早い。わらび座の前身であるポプラ座では、1952（昭和 27）年に公演されているのである。「うたごえ運動」による影響も等閑視できない。

以上、《ソーラン節》は音楽と体育の両教科の教材として位置付けられ、小学校と中学校の教科書にも掲載されている。このことから、小中一貫を図った学習において《ソーラン節》は適格と判断し、教材として選定した。

Ⅱ. 《ソーラン節》の授業実践

1. 実践の仮説

実践の仮説を以下の通り、設定した。

《ソーラン節》の学習において、ICT を活用したり、踊りを取り入れたりすることによって、《ソーラン節》を歌うことができるだろう。

上記の通り、手だてとして、ICT の活用と踊りを挙げた。ICT の活用に関しては、音楽デジタル教科書と DVD を活用する。

音楽デジタル教科書に関しては、教育芸術社の『中学生の音楽 1』を使用する。

DVD に関しては、日本フォークダンス連盟制作・発売『学校フォークダンス：小学校編』を使用する。ここに収録されている振付は、日本フォークダンス連盟編『学校フォークダンス指導のてびき』に掲載されている振付と同一である⁴²。前述の通り、この振付は、1953（昭和 28）年、栃木県で開催された「第 7 回レクリエーション大会」に発表されたものであった⁴³。DVD に収録されている《ソーラン節》の内容構成を一覧にしたものが、表 1 である。①では次のように《ソーラン節》の由来についてナレーションで説明される。

この踊りは明治 30 年代から北海道の南西部を中心としたニシン場の作業唄として唄われてきたもので、踊りには労働の振りが入っており、明るく威勢のよいメロディーによって全国的に普及しました。ニシン場の作業の様子が表現できるように力強く踊ります。

『学校フォークダンス指導のてびき』では「背景と特徴」として次のように記される⁴⁴。

明治30年代から北海道の南西部を中心とした、にしん場の作業唄としてうたわれてきたもので、積丹半島（岩内～古平）の沿岸の漁師が大漁の喜びと仕事の能率をあげるためにかけた掛け声から自然発生的に生まれたといわれている。踊りには労働のしぐさが入っており、重労働であったことが推察される。明るく威勢のよいメロディーによって全国的に普及し、北海道を代表する民謡として多くの人に親しまれている。

上記を比較すると、DVDでは、積丹半島について取り上げてはいないが、ほぼ内容は同一である。音楽デジタル教科書では、次のように説明される。

江戸時代から昭和初期にかけて、北海道の日本海沿岸ではニシン漁が盛んでした。この曲は、沖でニシンを網から運搬船に移すときに歌われていた歌で、「ソーラン」という作業時の掛け声からその名がつけました。歌詞は、作業の度に即興的につくられていたため、さまざまなものがあります。

歌詞について一覧にしたものが表2であり、さまざまなものがある。DVDと音楽デジタル教科書では歌詞が異なっている。DVDでは、町田・浅野の歌詞が基になっている。音楽デジタル教科書では、「聞けば」に修正されているが、今井の歌詞に基づいている。参考までに教育出版の教科書では、今井の歌詞が使用されている。

なお、繰り返しとなるが、小学校学習指導要領の体育科においては、「ソーラン節」は、第5学年及び第6学年の「F 表現運動」の「イ フォークダンス（日本の民踊を含む）」の中の「日本の民踊」において「力強い踊り」として位置付けられ、「低く踏みしめるような足取りや腰の動きで踊ること」が示される⁴⁵。

表1 DVD『学校フォークダンス：小学校編』

	時間	内容
①	0:40	《ソーラン節》の由来
②	3:50	《ソーラン節》に合わせて10名の子どもが円になって反時計回りで5回踊る
③	6:10	「踊り方の説明」

		着物を着た女性一人が《ソーラン節》ではなく、ナレーションの説明に合わせてゆっくり踊る。
④	6:45	着物を着た女性一人が《ソーラン節》ではなく、ナレーションの口唱歌に合わせて踊る。
⑤	7:26	着物を着た女性一人が《ソーラン節》ではなく、ナレーションのカウントに合わせてやや早く踊る。

表2 歌詞の比較

	歌詞
フオーク	沖のかもめに 潮時間えば わたしゃ立つ鳥 波にきけ
DVD	沖の鷗が 物言うならば 便り聞いたり 聞かせたり 鯨くるかと 稲荷にきけば どこの稲荷も コンと鳴く 余市よいとこ 一度はござれ 海に黄金の 波が立つ 男度胸なら 五尺のからだ ドンとのりだせ 波の上
教芸 中1 2017	ニシン来たかと カモメに聞けば わたしゃ立つ鳥 波にきけ ※伊藤多喜雄採譜
教育 小4 2015	にしん来たかと かもめに問えば わたしゃ立つ鳥 波にきけ ※きたかみじゅん編曲
教育 中1 2017	にしん来たかと かもめに問えば わたしゃ立つ鳥 波にきけ 男度胸なら 五尺のからだ ドンとのりだせ 波の上 ※野木雄大編曲
わら び座	男度胸は 五尺のからだ ドンと乗りだせ 波の上 船も新し 乗り手も若い 一丈五尺の ろもしなる 沖の暗いのは 北海あらし

	<p>おやじ帆をまけ かじをとれ</p> <p>おやじ大漁だ 昔とちがう とれた魚は おらがもの</p>
今井 篁山	<p>鯨来たかと 鷗に問えば わたしゃ立つ鳥 波に聞け</p> <p>唄に日暮れて 鷗に明けて 寄せる鯨の 鯨波</p> <p>乙女子心の ハマナス咲いて 今宵出船の 色添える</p> <p>嫁コ取るなら 鯨場の娘 色は黒いが 気だてよい</p> <p>男度胸なら 五尺のからだ どんと乗り出せ 波の上 ※《北海ソーラン節》キング・レコード</p>
町田・ 浅野 1960	<p>沖の鷗に 潮時間えば わたしゃ立つ鳥 波に聞け</p> <p>沖の鷗が 物言うならば 便り聞いたり 聞かせたり</p> <p>鯨くるかと 稲荷にきけば どこの稲荷も コンと鳴く</p> <p>今宵一夜は 緞子の枕 あすは出船の 波まくら</p> <p>余市よいとこ 一度はござれ 海に黄金の 波が立つ</p> <p>嫁コ取るなら 鯨場の娘 色は黒いが 気立よい</p> <p>男度胸なら 五尺のからだ ドンとのりだせ 波の上</p> <p>江差山のえの 井戸水汲めば どんな年寄も 若くなる</p>

民謡 大観 1980	<p>夢の積丹 美国の浜は 主に見せたいものばかり</p> <p>おじま小島は 兄弟島よ 何故にこれ島 離れ島</p> <p>離れ島でも 時節が来れば 春は鷗の 群とまる</p> <p>親の意見と 茄子の花は 千にひとつの むだもない</p> <p>吹いてくれるな 夜中の嵐 主は今夜も 沖泊り</p> <p>大漁手拭 きりりとしめて 一夜千両の 網起し ※積丹郡積丹町美国町</p> <p>お島小島の あいとる舟は 江差通いが なつかしく</p> <p>親の意見を まともに聞けば 漁師仲間の 義理下る ※檜山郡江差町</p> <p>船の舳先に どんと打つ波が 可愛いあなたの 度胸だめし</p> <p>私や太櫓の 荒浪育ち 浪も荒いが 気も荒い ※瀬棚郡北檜山町太櫓</p> <p>沖の鷗が もの言うならば 便り聞いたり 聞かせたり</p> <p>沖の鷗の なく声きけば 漁師稼業は やめられぬ ※古平郡古平町</p> <p>遅いも速いも 手網立て次第だ</p> <p>浜の娘は 白粉いらぬ</p>
------------------	---

	<p>銀の鱗で 肌光る</p> <p>宗谷岬に 寄せ来る波は 鯨大漁の 鯨波 ※稚内市</p>
竹内 勉 2018	<p>鯨来たかと 鷗に問えば わたしゃ立つ鳥 波に聞け</p> <p>見たか沖揚げ 聞いたか音頭 浜に黄金の 花が咲く</p> <p>今宵一夜は 緞子の枕 明日は出船で 波枕</p> <p>漁場のあねコは 白粉いらぬ 銀の鱗で 肌光る</p> <p>一度おいでよ 積丹美国 主と解きたい 古代文字</p> <p>余市古平 参道越えりゃ 恋しなつかし 美国町</p> <p>夢の積丹 美国の浜は 主に見せたい ものばかり</p> <p>沖で鷗の 鳴く声聞けば 船乗り稼業は やめられぬ</p> <p>嫁コ取るなら 鯨場のあねコ 色は黒いが 気立てよい</p> <p>男度胸から 五尺の体 ドンと乗り出せ 波の上</p> <p>船は出る出る 鷗は帰る 波は磯打つ 日は暮れる</p> <p>流れ流れて 着いたる島は 黄金花咲く 蝦夷ヶ島</p> <p>玉の素肌が 飛沫に濡れりゃ 浮気鷗が 見て騒ぐ</p>

	<p>波の背の背で ドンと打つ波は 可愛いお方の 度胸試し</p> <p>唄に日暮れて 鷗に明けて 寄せる鯨の 鱗波</p> <p>鯨来たとして 鷗が知らず 娘心は 目で知らず</p> <p>ばたばたばためくな なんぼばためでも 網コさ入った 鯨だも</p> <p>津軽雇いと 信翁天の鳥コ いつも春来て 秋帰る</p> <p>今朝も早よから 沖揚げ音頭 晩にやおいらも 飲めるべが</p> <p>孫子の代まで 雇いはさせるもんでね 三平汁まぐらって 時化来ればくたばる</p> <p>乗りがよいぞと 船頭が怒鳴る 意気も揃った 沖揚げに</p> <p>鳴くなだし風 騒ぐなあいよ 群来た鯨が みな逃げる</p> <p>ヤン衆可愛いや ソーラン節で ちょっと飲ませば また稼ぐ</p>
青年 歌集 1948	<p>おやじ大漁だ 昔とちがう とれた魚は 俺がもの</p> <p>にしん来たかと 稲荷に聞けば どこの稲荷も コンと言うた</p> <p>おらが国さで 見せたいものは 大漁のぼりの 赤い旗</p>

2. モデル指導案

音楽デジタル教科書ならびに DVD の操作のタイミングも明記したモデル指導案を下記の通り、作成した。

第4学年1組音楽科学習指導案

令和2年1月23日（木）5校時

授業者 谷口峻音

- 1 題材名 日本の音楽に親しもう
- 2 題材設定の理由

本題材は、小学校学習指導要領で以下のように位置付けられる。

内容の取扱いと指導上の配慮事項 (4) ア

歌唱教材については、我が国や郷土の音楽に愛着がもてるよう、共通教材のほか、長い間親しまれてきた唱歌、それぞれの地方に伝承されているわらべうたや民謡など日本のうたを含めて取り上げるようにすること。

本教材は、歌い方や拍の流れ（八木節様式、追分様式）に注目して日本の民謡を鑑賞し、日本の音楽に親しみながら、その雰囲気や特徴を感じ取る学習を進める題材として位置付けられている。

「ソーラン節」は北海道民謡で、ニシン漁のときに歌われていた仕事唄で、八木節様式である。小学校の現行の教科書では、教育芸術社では第4学年において鑑賞教材として、教育出版では第4学年において歌唱教材として取り上げられている。一方、中学校の教科書では、教育芸術社、教育出版ともに第1学年の歌唱教材として取り上げられている。このように「ソーラン節」は、小学校、中学校ともに取り上げられる教材である。なお、体育科の第5学年及び第6学年の「表現運動」に位置付けられる「フォークダンス」の中の「日本の民謡」においても「ソーラン節」は、教材の一例として紹介される。

子どもたちは、第3学年において「日本の音楽に親しもう」という題材名で、「神田囃子」「花輪ばやし」「小倉祇園太鼓」を鑑賞することを通して、日本の楽器の音に親しんだり、お囃子の旋律を創作する活動をしたりしてきた。また、第1学年、第2学年では「日本のうたを楽しもう」という題材名で、日本のわらべうたを歌う活動をしてきたが、日本の民謡を学習することは初めての経験となる。

指導に当たっては、音楽デジタル教科書を活用する。小学校音楽デジタル教科書では日本の民謡の範唱が収録されていないため、今回、「ソーラン節」の模範演奏の動画が収録されている中学校音楽デジタル教科書を使用する。また、踊りも取り入れ、体全体で日本の民謡を感じ取りながら、繰り返し耳にすることで、歌唱活動への導入へと発展できると考える。

3 題材目標

- (1) 日本の音楽の雰囲気や特徴を感じ取りながら、日本の民謡を歌う技能を身に付けるようにする。
- (2) 日本の音楽の雰囲気や特徴のよさなどを見いだしながら、日本の民謡を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 様々な日本の民謡に親しむとともに、伝統と文化を尊重しようとする態度を養う。

4 学習計画（全6時間）

第1次 音楽のとくちょうを感じ取りながら、日本の民謡をききましょう。

第1時 「ソーラン節」と「南部牛追い歌」の比較鑑賞。

第2次 日本の音楽のふんいきを感じ取ってえんそうしましょう。

第1時 「ソーラン節」の曲の感じをつかみ、踊る。(体育)

第2時 「ソーラン節」の曲の感じをつかみ、歌う。(本時)

第3次 郷土の民謡

第1時 全国にある民謡について調べたことを発表する。

第2時 「貝がら節」の曲の感じをつかみ、踊る。(体育)

第3時 「貝がら節」の曲の感じをつかみ、歌う。

5 本時の学習

(1) 本時の目標

日本の音楽の雰囲気や特徴を感じ取りながら、「ソーラン節」を歌う技能を身に付ける。

(2) 本時の展開

学習活動	教師の支援 (・) 意図 (○) 評価 (◇) デジタル教科書 (☆) DVD (◎)
1 「ソーラン節」を踊り、前時の復習をする。 2 「ソーラン節」の模範演奏を鑑賞し、曲の感じをつかみ、感想を発表する。 ・力強く、真剣に歌っているな。 ・「ハイハイ」と言っているね。 ・今日は歌にもチャレンジしたいな。 3 本時のねらいをつかむ。	◎DVDを流す。 ☆模範演奏をクリックする。 ○歌に着目できるようにする。 ・子どもの感想を活かして本時のねらいを設定し、板書する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">「ソーラン節」の曲の感じをつかみ、歌おう。</div>	
4 旋律を少しずつ区切って、模範演奏をまねて繰り返し歌う。 ・最初の「ヤー」は長くのばすのだな。 ・歯切れよく歌う必要があるな。 ・声が震えている部分があるね。 5 歌詞の意味を理解する。 ・ニシン漁のときに歌う民謡なのだね。 ・もう一度、歌いたいな。 6 歌い方の特徴を感じ取り、工夫しながら「ソーラン節」を歌う。 ・歌詞が分かると、力強く歌えるよ。 ・「コブシ」の歌い方を気を付けたいな。 7 本時の学習を振り返り、感想を書く。	☆旋律 (①～④) をクリックする。 ○模倣と繰り返しを取り入れる。 ○「コブシ」に着目できるようにする。 ☆歌詞や写真をクリックする。 ・難解な語句の意味について解説する。 ・慣れてきたら、アカペラでも歌えるようにする。 ◇日本の民謡の特徴を感じ取りながら、民謡にふさわしい表現で歌っている。【観察】 ・日本の民謡について各自で調べてくるように指示する。

3. 授業の実際

観察記録、子どもを対象としたアンケート調査等の結果に基づき、仮説の有効性を検証したい。

アンケート調査の対象者及び調査日は以下の通りである。

- ・対象：鳥取大学附属小学校第4学年 33名
- ・実施日：2020（令和2）年1月23日（木）
- ・実施場所：鳥取大学附属小学校音楽室

(1) 「ソーラン節」の感じをつかみ、踊る

モデル指導案「4 学習計画」に示された「第2次 第1時」の「「ソーラン節」の感じをつかみ、踊る」の授業が、2020（令和2）年1月20日（月）に鳥取大学附属小学校において谷口によって実践された。ここではDVDが活用された。

授業の導入では、前のスクリーンに「踊」の一文字が提示され、授業者が「今日は踊って楽しみたいと思います」と言うと、「イエーイ」と一斉に歓声が

沸き、子どもたちは踊る活動に対して強い関心・意欲を示す（写真1）。

表3の通り、授業はDVDを活用して進められ、最初からDVDを見様見まねで踊る活動が行われた（写真2）。《ソーラン節》の音源が入っている②が用いられたのが、20分20秒以降で2番までは鑑賞し、3番以降は手の振りを加えながら鑑賞した。その後、4円に分かれて、反時計回りで踊った（写真3）。

子どもたちが苦勞していた箇所は、DVDの「右足を踏み、左足を出して、右足トン。右足を出して、左足トン」（表1③）の箇所である。表1④では「右、左でトン、右でトン」とナレーションされ、左足でトンをするのだと勘違いをし、苦勞していた。

表3 授業におけるDVD

時間	DVD	メモ
3:50	③	T「これに合わせてやってみようと思います」の後、スクリーンを見ながら立って踊る。DVDが流れると、Cから笑いが起きる。
6:20	③	教室の後ろに下がって、踊る。
9:05	④	
9:40	⑤	DVDに対し、C「説明がだんだん雑になってくる」とのつぶやき。
11:30	③	
13:30	④	
14:00	⑤	
15:20	③一部	
15:50	④	
16:30	⑤	一部のCから「覚えました」とのつぶやき。

17:50	①	スクリーンの前に座って見る。
20:20	② 1~2番	3番以降、T「手をつけて」の後、座りながら手をつける。
25:00	②	4円に分かれて、反時計回りで踊る。
30:20	③	T「どこが難しいですか」、C「足のところ」の後、再度、③で確認する。
32:20	④	
33:00	⑤	
34:05	②	T「余裕が出てきたら歌ってみて」の後、C、口ずさむ。



写真1 授業の導入



写真2 「踊り方の説明」を見ながら踊る



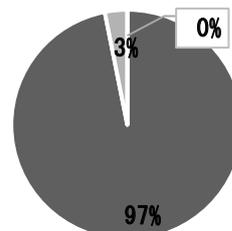
写真3 《ソーラン節》を円になって踊る

授業の最後の振り返りと次時への予告は下記の通り行われた。97%の子どもが踊るのが楽しかったとの回答(図1)とも一致する通り、足のステップに苦労したところもあったが、楽しんでいた。

「民謡」という用語にも初めて出会い、《ソーラン節》が「民謡」であることを理解した。

- T さあ、今日は踊りましたね。
 C はい。
 T どうでしたか。
 C 楽しかったです。
 T 本当ですか。〇〇さんどうでしたか。
 C 難しかったです。
 T 難しかったですね。あの足の動き、難しいですよね。覚えられたという人?
 (大部分の子どもが挙手)
 T でもこの授業、何の授業?
 C 踊り。
 T 違います。音楽ですね。音楽の授業です。次回はこの《ソーラン節》を
 C 着物を着て。
 T いやいや。
 (子どもたち、笑う)
 T したいですけども、歌ってみたいと思います。
 C 無理だよ…
 T こういう曲、どういうときに聴く?
 C 昔の。
 C お祭り。
 C 伝統。
 T そうだね。家に帰ってこれ聴く人はおらんな。
 (子どもたち、笑う)
 C おじいちゃんが酔っ払って…
 T こういう曲のことを何ていう?
 C 演歌。
 C 節。
 T こういうのを「民謡」といいます。

民謡に次回、歌ってみてチャレンジしてみようと思います。また、スペシャルな動画が待っています。



■はい ■どちらでもない ■いいえ

図1 《ソーラン節》を踊るのは、楽しかったか。

(2) 「ソーラン節」の感じをつかみ、歌う

「第2次 第2時」の「「ソーラン節」の感じをつかみ、歌う」の授業が、2020(令和2)年1月23日(木)に実践された。授業の導入では、DVDを活用して《ソーラン節》を踊った。「「ソーラン節」の曲の感じをつかみ歌おう」のねらいを確認した後、表4の通り、歌う活動では中学校音楽デジタル教科書が活用された。

最初(9分20秒)、音楽デジタル教科書の模範演奏に対し、子どもたちは真剣に画面を見つめ、強い興味と関心を示していた。授業者の「もう一回、聴きたい人？」に対し、ほとんどの子どもたちが「はい」と元気よく返答する。「歌の感じを聴き取って」の指示の後、再度、模範演奏が流され、その後に出された感想は、写真4の通りである。その後、模範演奏を区切って聴き、歌詞の書き取りを行った。子どもたちが一緒に聴き、回答し、それを授業者が板書する方法で進められた。音楽デジタル教科書の「歌詞」がクリックされ、提示される(写真5、24分35秒)。さらにニシン漁の写真も提示され、歌詞の内容の理解も深まる(写真6、27分10秒)。

続いて(28分35秒以降)、①から④まで区切って収録されている動画を使い、区切って練習する。これには歌う際のポイントも収録されている。④まで終わったところで、「歌うときに工夫することは？」という発問があり、「力強く歌う」「力強く、口を大きくあけて、ビブラートで」「力強く、アクセントをつけて」「アクセント」「しっかり言葉を歌う」等の意見が出された。「力強く」という意見が最多であった。「ビブラート」や「アクセント」といった西洋音

楽の用語は出てきたが、「コブシ」という用語は出てこなく、知らない様子であった。「コブシ」という歌い方がポイントになります」と授業者の側から示され、音楽デジタル教科書の「コブシ」の動画がクリックされた(38分40秒)。最後に囃子ことばを4グループが交代で分担するために、4回、模範演奏に合わせて歌い、授業を終えた(写真7)。

82%の子どもが歌うのは楽しかったと回答し(図2)、94%の子どもが、音楽デジタル教科書は参考になったと回答する。上記の観察記録と合わせて考察しても、音楽デジタル教科書の有効性が確認できる。

表4 授業における音楽デジタル教科書

時間	教科書	メモ
9:20	模範演奏	演奏が始まると、真剣に画面を見つめ、笑いも起きる。演奏が終わると、「早い」というつぶやきも出る。 T「もう一回、聴きたい人？」にほとんどのCが「はい」と元気よく返答する。
11:10	模範演奏	T「歌の感じを聴き取って」の指示の後、鑑賞。
17:30	模範演奏一部	①最初の囃子ことばの歌詞を聴き取る。
18:20	模範演奏一部	②「ニシン来たかとカモメに聞けば」の聴き取り。
19:40	模範演奏一部	③「私や発つ鳥波に聞けチョイ」の聴き取り。
20:00	模範演奏一部	「ニシン～発つ鳥」の聴き取り。
20:30	模範演奏一部	「波に聞けチョイ」の聴き取り。
21:30	模範演奏一部	④最後の囃子ことばの聴き取り。
22:08	模範演奏一部	最後の囃子ことばの聴き取り。
22:50	模範演奏	歌詞がほぼ板書され、T「これに合わせて歌ってみよう」の指示で、模範演奏に合わせて歌う。その際、一部の子どもが手拍子をしながらかう。

24:35	歌詞	歌詞の画面を見て、2回、音読する。
27:10	ニシン漁の写真	漁のときの歌という説明がされ、「昭和初期のニシン漁の様子」が映し出される。「ニシンとは何？」というつぶやきがあったものの、近くのCが「魚」とそっと教える。
28:35	①演奏前半	①を演奏に合わせて歌う。
29:05	①演奏	①を演奏に合わせて歌った後、ポイントを聞き、再度、①を歌う。
30:03	②演奏前半	②を演奏に合わせて歌う。
30:16	②演奏	②を演奏に合わせて歌った後、ポイントを聞き、再度、②を歌う。
30:48	③演奏前半	③を演奏に合わせて歌う。
30:55	③演奏	③を演奏に合わせて歌った後、ポイントを聞き、再度、③を歌う。
31:25	④演奏前半	④を演奏に合わせて歌う。
31:35	④演奏	④を演奏に合わせて歌った後、ポイントを聞き、再度、④を歌う。
38:40	コブシ動画	T「コブシという歌い方がポイントになります」の後、動画を見て、コブシについて学ぶ。その後、模範演奏に合わせて歌う。
42:50	模範演奏	模範演奏に合わせて歌う。
44:15	模範演奏	模範演奏に合わせて歌う。
45:10	模範演奏	模範演奏に合わせて歌う。
46:09	模範演奏	模範演奏に合わせて歌う。

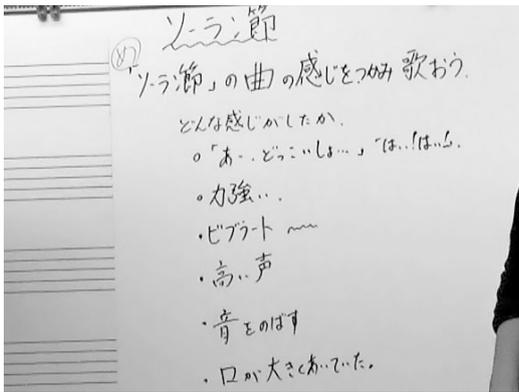
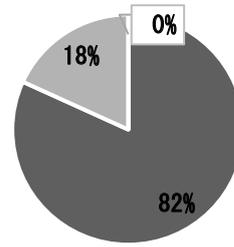


写真4 《ソラン節》の感じ



■はい ■どちらでもない ■いいえ

図2 《ソラン節》を歌うのは、楽しかったか。

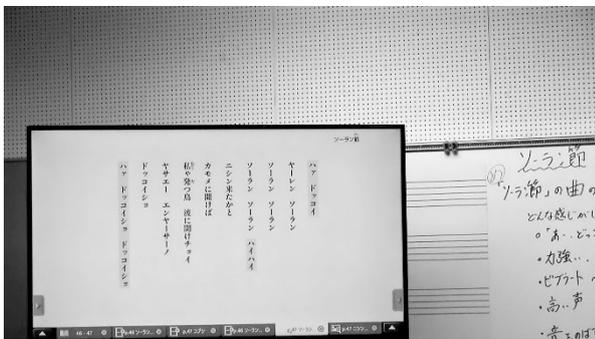
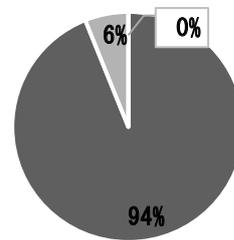


写真5 音楽デジタル教科書の歌詞



■はい ■どちらでもない ■いいえ

図3 音楽デジタル教科書は参考になったか。



写真6 音楽デジタル教科書のニシン漁の写真



写真7 音楽デジタル教科書に合わせて歌う

おわりに

東京都立江戸川養護学校（現、東京都立江戸川特別支援学校）において1985（昭和60）年に、ビデオを活用して《ソラン節》の実践を行った梅田仁は、以下のように言及する⁴⁶。

宮城教育大学の中森氏が、教材との出会いで、子どもたちの心を揺さぶること、そのためには、教師自らが、未熟でも、精一杯踊って見せることの大切さを話されている点についてです。子どもたちの《そうらん節》との出会いが、私自身の踊りによるものだったら、と後悔しています。借り物でない、本物を、まず、わが身に刻むことの大切さを痛感しているところです。

上記の指摘については、筆者らも考えさせられた。理想としては、教員の示範であろう。ただし、全教科を担当する小学校教員にとっては、厳しい側面もある。そこで筆者が提案したのは、音楽デジタル教科書とDVDといったICTの活用である。本研究を通して歌唱の際には、音楽デジタル教科書、踊りの際には、DVDの有効性が確認された。

今回、日本フォークダンス連盟の DVD を使用したが、わらび座からも『わらび座の民舞指導 ソーラン節（北海道）』や『DVD でおぼえる NEW ソーラン節』等の DVD が発売されている。必要に応じてこのような教材を活用しながら、子どもと一緒に教員も学ぶといった姿勢は大切になるだろう。

付記

本研究は、JSPS 科研費 JP17K04785 の助成を受けたものです。

本稿は日本音楽教育学会第 51 回大会オンライン大会（2020 年 10 月）における口頭発表を発展させたものである。

注

- 1 鈴木慎一朗「小学校の音楽デジタル教科書における日本の民謡の基礎調査：《こきりこ》を事例として」『地域学論集』第 14 巻第 1 号，2017 年，鳥取大学，pp.123-136。
- 2 鈴木慎一朗・廣富恵美子「中学校における音楽デジタル教科書を活用した日本の民謡の指導法開発：《ソーラン節》を通して」『地域学論集』第 14 巻第 2 号，鳥取大学，2018 年，pp.123-137。
- 3 大屋省子「学級担任と声楽家の協同による《炭坑節》の授業実践：地域の歴史学習と身体表現が歌唱力を高めた事例」『音楽教育実践ジャーナル』vol.12no.2，日本音楽教育学会，2015 年，pp.76-87。
- 4 衛藤晶子「民謡《ソーラン節》装飾音」小島律子監修『日本伝統音楽の授業をデザインする』廣済堂あかつき，2008 年，pp.109-115。
- 5 日本放送協会編『日本民謡大観 九州編（南部）・北海道篇』日本放送出版協会，1980 年，p.514。
- 6 竹内勉『日本民謡事典 I 北海道・東北』朝倉書店，2018 年，p.15。
- 7 同書，p.15。
- 8 日外アソシエーツ編『歌い継がれる名曲案内 音楽教科書掲載作品 10000』日外アソシエーツ，2011 年，p.676。
- 9 音楽教育研究協会『新版標準音楽 5 年』教育出版，1965 年，p.31。
- 10 市川都志春・松本民之助・石桁真礼生『教芸決定版 中学音楽 1』教育芸術社，1957 年，p.41。
- 11 鈴木慎一朗「フォークダンスの日本への普及と日本の民謡：中山義夫と鳥取県の民謡」『地域学論集』第 16 巻第 3 号，鳥取大学，2020 年，pp.8-11。
- 12 文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説体育編』2018 年，p.148。
- 13 中山義夫『日本の民謡』鶴書房，1955 年，pp.13-15。
- 14 侯越「わらび座の活動理念と社会情勢との関わり」『千葉大学 社会文化科学研究』第 3 号，1999 年，pp.1-16。
西嶋一泰「1950 年代における文化運動のなかの民俗芸能：原太郎と「わらび座」の活動をめぐって」『Core Ethics：コア・エシックス』Vol.6，立命館大学大学院先端総合学術研究科，2010 年，

- pp.299-310。
西嶋一泰「プロレタリア音楽家同盟における移動音楽隊の実践」『生存学研究センター報告』17 巻，立命館大学生存学研究センター，2012 年，pp.284-306。
- 15 小熊英二『「民主」と「愛国」：戦後日本のナショナリズムと公共性』新曜社，2002 年，pp.175-186。
- 16 長木誠司『戦後の音楽：芸術音楽のポリティクスとポエティクス』作品社，2010 年，pp.84-99。
- 17 寺田真由美「うたごえ運動における民謡の意義：昭和 30 年代の《木曾節》を例として」『表現文化研究』第 3 巻第 1 号，神戸大学，2003 年，pp.21-36。
- 18 長木，前掲書，pp.92-93。
- 19 原太郎『原太郎芸術論集』第 2 巻，未来社，1976 年，p.59。
- 20 小熊，前掲書，p.280。
- 21 長木，前掲書，p.87。
- 22 原，前掲書，p.91。
- 23 小熊，前掲書，pp.281-282。
- 24 同書，p.280。
- 25 同書，p.285。
- 26 横山茂の本を作る会編『奇跡の歌手・横山茂：わらび座を創った男の物語』あけび書房，2005 年，pp.71-77。
- 27 同書，pp.77-99。
- 28 同書，pp.100-102。
- 29 原太郎『原太郎芸術論集』第 1 巻，未来社，1974 年，p.56。
- 30 小熊，前掲書，pp.287-288。
- 31 原，前掲書，第 2 巻，p.64。
- 32 同書，p.76。
- 33 及川和男『わらび座修学旅行』岩波書店，1987 年。
- 34 わらび座 「劇団わらび座のあゆみ」
<https://www.warabi.jp/info/wrabizanoayumi181124.pdf>
(2020 年 9 月 16 日閲覧)
- 35 中森孜郎『日本の子どもに日本の踊りを』大修館書店，1990 年，p.22。
- 36 同書，pp.16-18。
- 37 同書，p.22。
- 38 同書，pp.90-98。

³⁹ 同書, pp.25-29。

⁴⁰ 同書, pp.99-126。

⁴¹ 《YOSAKOI ソーラン》については下記で概観した。

鈴木慎一郎「小学校道徳教科書における「我が国や郷土の文化：日本の民謡に着目して」『地域学論集』第15巻第2号, 鳥取大学, 2019年, pp.83-94。

⁴² 日本フォークダンス連盟編『学校フォークダン

ス指導のてびき』大修館書店, 1990年, pp.78-82。

⁴³ 中山義夫『日本の民踊』鶴書房, 1955年, pp.13-15。

⁴⁴ 日本フォークダンス連盟, 前掲書, p.78。

⁴⁵ 文部科学省, 前掲書, p.148。

⁴⁶ 梅田仁「養護学校のそうらん節：都立江戸川養護学校の実践」中森孜郎『日本の子どもに日本の踊りを』大修館書店, 1990年, p.192。